



理学療法士



患者さんの運動機能を回復するため、
さまざまな手法でアプローチ

OB VOICE



鴨狩 裕貴さん

国際医療福祉大学熱海病院 勤務
小田原保健医療学部
理学療法学科 卒業

けがや病気による
さまざまな症状に対応
さらにステップアップをめざします

手術や受傷直後の患者さんにリハビリテーションを行っています。足、腰の骨折や内臓の病気など原因はさまざまです。点滴や心電図モニターなどが身体につながっているときは、データやモニターを確認しながら慎重に、起き上がりや歩行練習のリハビリを行います。退院後も外来リハビリでサポートしています。心臓、腎臓、糖尿病など内部障害に関心があるので、将来は心臓リハビリテーション指導士や糖尿病療法指導士の資格をとって、患者さんを支えていきたいと思っています。

どんな仕事？

基本的動作能力の回復を図る

けがや病気などで身体機能に障害を持つ人に対して、基本的動作能力（起きる・座る・立つ・歩くなど）の回復を図ります。障害や後遺症がある「部位」に注目して、①運動療法（治療体操など）②物理療法（熱・水・光・電気・徒手）③日常生活動作練習を実施するほか、義足・装具の活用や生活環境の改善を行います。

どこで働く？

医療福祉からスポーツ関連まで ニーズはますます高まっています

- 病院
 - 保健所・保健センター
 - リハビリテーションセンター
 - 医療機器関連企業
 - 福祉施設
 - プロスポーツチーム
- など

仕事の展開と将来の展望

スポーツ分野や障害の予防でも活躍

理学療法の対象は、障害を持つ人ばかりでなく、入院で体力が低下した人、高齢者など今後障害が出ると予測される人、日常的に身体を酷使するスポーツ選手など幅広く、近年は、障害の予防にも取り組むようになってきました。さらに、呼吸循環器系の病気や糖尿病などが原因の歩行困難や持久力低下が増えており、理学療法士も高度な医療知識を持つことが望まれています。

どうすればなれる？

- 理学療法士国家試験に合格しなければなりません。

受験資格を得るには…

文部科学大臣指定の学校で3年以上学び、必要な知識・技能を修得する
厚生労働大臣指定の専門学校で3年以上学び、必要な知識・技能を修得する
などの方法があります。

